

学校飛翔委員会

平成 31 年 2 月 14 日(木)

○豊川少年少女発明クラブ専任指導員理事 渡邊光雄 様

- ・研究発表大会は基礎やプロセスが鮮明に出ていたが、全体的にマンネリ化、ルーティン化している気がする。
- ・部活動の多忙化解消はどのような対策を考えているか？
→ 次年度 4 月から部活動ガイドラインを基本にし、見直していく。
- ・ボランティアが少ないと出ているが、良くやっていると思う。自己肯定感を持ってほしい。
- ・部活動が制限されると、生徒の空き時間が増える。空いた時間をどうするか生徒に聞いてほしい。

○中日精工株式会社代表取締役社長 山本哲司 様

- ・研究発表大会では工業高校の特色がよく出ていた。動画や実演が多くなると見ている方も楽しくなる。
- ・心のアンケートの結果を見て、日頃から生徒間、生徒と教員、生徒と保護者など人間関係が大事だと思う。

○本校同窓会長 柴田浩志 様

- ・アンケートからいじめがあると答えている生徒が減っている。学校生活を楽しいと答える生徒が多くなると良い。

○中部西北連区長 沼田俊昭 様

- ・研究発表は、生徒にとって大変有意義である。生徒の取り組む姿勢が良い。

○代田地区連区長 廣田洋一 様

- ・豊川工業高校も含めて地域全体での発展を考えていくことが大切であると思う。豊川工業高校を災害時の避難先としても活用していきたい。

○新道町町内会相談役 村田綱雄 様

- ・年々研究発表大会の内容がよくなってきている。生徒の発表を見て、自分も勉強になる。
- ・ビデオに撮影して後で活用するのもよいと思う。

○本校 P T A 副会長 青山あかね 様

- ・研究発表大会を初めて見たが、子どもたちの行動力や発想に驚いた。
- ・学校評価アンケートを見て、家庭学習をするように学校でも促してほしい。

○本校 P T A 副会長 柿原昭二 様

- ・研究発表大会でステージに上がることができなかった子どもたちにも発表の場があったのか？
→ 学科毎に 3 年生全員が、勤労福祉会館で発表を行っている。
- ・部活動顧問と保護者の価値観が違う部活動がある。生徒と先生とのミーティングを多くする必要があると考える。